



[建築作品紹介]

茨城県立水海道第一高校

生徒全員が時間と空間を共有できる校舎の創出

センターホール 撮影：堀内広治（表紙、p8-9、裏表紙）

水海道一高の特質

水海道一高は、創立以来110年の歴史をもつ茨城県内有数の伝統校である。立志・自学自習を掲げ、近年においては単位制運営方式を採用して、教育の充実を図っている。

鬼怒川沿いの亀岡と呼ばれる小高い丘に建ち、多くの人材を輩出してきた水海道一高は、名実ともに水海道地域のシンボルとなっている。

亀陵のアゴラ

水海道一高の求める生徒たちの志を育む環境は、古代ギリシアの都市国家ポリスの広場アゴラに通じるものである。

アゴラは、市場や民会の開催場所として確立され、そこでは、市民が集い、議論を交わし、互いに学び合ったと考えられている。若者たちが集い、学び合うこの学校を

立地にちなんで「亀陵のアゴラ」とすることを目指した。

配置計画

1学年7クラス3学年分の教室を納める5階建ての新校舎は、南北軸に配置して、小さなフットプリントを実現し、グラウンドは既存維持とした。

新校舎は特別教室棟と直交し、亀陵会館と平行する。整然と並ぶ3つの校舎が前庭を取り囲み、正門から見る校内の風景に新たな秩序を創り出した。

新校舎の足元をゲートとして、以前は関係が切れていた前庭とグラウンドを結ぶ通路を設けた。この通路に面して昇降口・玄関を配置することで、通学や授業の利便性を確保し、構内環境の快適性を向上させた。

平面計画

1・2階に管理諸室、3～5階に1学年1フロアとして普通教室を各フロア同じ構成で配置した。

校舎中央に各学年のフロアを貫く3層吹抜けのセンターホールを据えた。各階ともセンターホールを囲むように教室を配置し、生徒たち全員がいつでも時間と空間を共有できることを目指した。

2つの教室の間に、アッセンブリースペースとして小さな教室を設けた。教室・アッセンブリースペース・センターホールの組み合わせにより、単位制運営方式の2クラス3展開、3クラス5展開等の選択授業に柔軟に対応できるようにした。

断面計画

新校舎と特別教室棟間の往來を安全に快適に行えるように、新

茨城県立 水海道第一高校

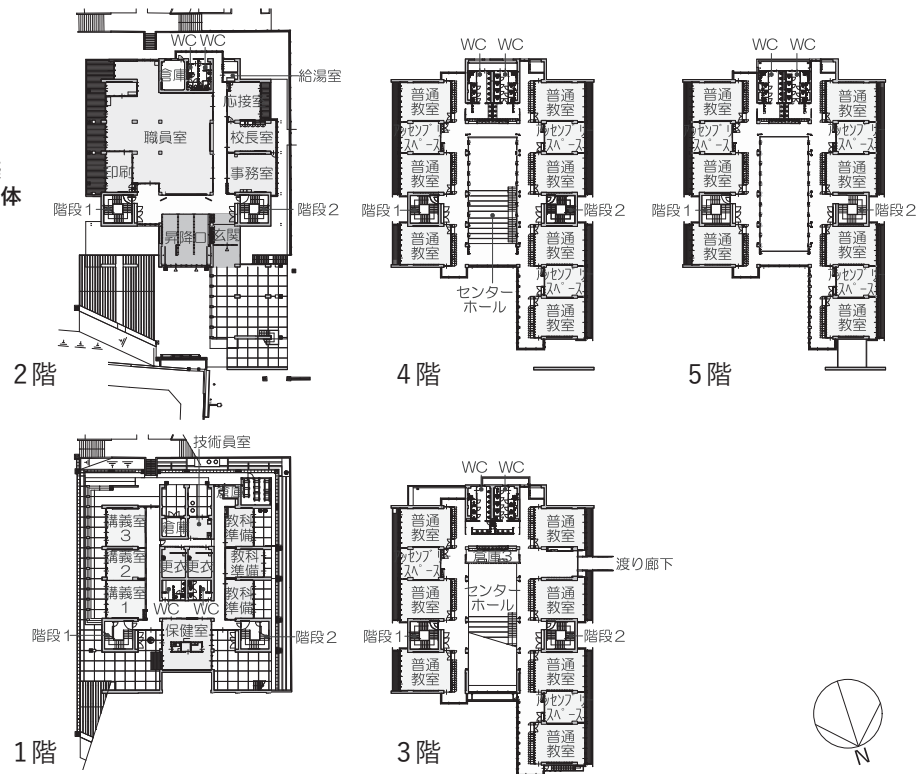
所在地 茨城県常総市

設計・監理 三上建築事務所・
眞建築設計室建築
関連業務共同企業体

建築面積 1,498.89㎡

延床面積 5,222.08㎡

主体構造 RC造 地上5階建



校舎3階と特別教室棟2階で両者を結んだ。特別教室棟の2階床レベルを基準として新校舎の3階床レベルを設定し、そのレベルから上下に振り分けた。

階高は3,600mmとして、型枠横使いとした場合に1層分4枚で定尺のまま用いることができて、切無駄をなくし、転用をしやすくした。

構造計画・設備計画

フレキシブルな内部空間を確保するため、比較的閉じた空間とすることが可能な階段・トイレ等に耐震要素を集約して柱は軸力のみを負担することを前提とした。

壁・天井での突起物をなくすために、構造計画における柱・梁、設備計画における配管やダクト、配線ラック等は建築計画との整合を図った。同時に、縦方向の設備

経路を適切な位置に配置し、設備経路を単純化した。

鬼怒川氾濫

2015年9月10日の鬼怒川堤防決壊によって水海道の市街地は甚大な浸水被害を受けた。

水海道一高は、浸水の被害を免れて、9月10日から9月22日まで地域の避難所として504名を受け入れた。

小高い亀岡に立地していたことが地域の助けとなった。



南面全景